

① いづれの 御時

格助(連体) の 助動(断用) に か、 係助(疑問)(係↑省)

女御、更衣 副 あまた

候ひ 動謙(八四・用) ↓帝

給ひ 補動尊(八四・用) ↓女御、更衣

ける 助動(過体) 中 格助(場所) に、 副 いと やむことなき 際

に 助動(断・用) は 係助(強調)

あら 補動(ラ変未)

ぬ 助動(消体) が、 格助(同格) 副 すぐれて 時めき 給ふ 補動尊(八四・体) ↓桐壺の更衣

あり 動(ラ変用) けり。 助動(過・終)

② はじめ より 我

格助(起点) より 我 係助(取立) は と 格助(引用) 思ひあがり 給へ 補動尊(八四・命) ↓御方々

る 助動(存・体) 御方々、

めざましき 形(シク・体) 者

に 格助(内容) おとしめ そねみ 給ふ。 補動尊(八四・終) ↓御方々

③ 同じ ほど、それ

より 格助(比較) 下臈

の 格助(連体) 更衣たち は、 係助(取立) 副 まして やすから ず。 助動(消終) ↓帝

④ 朝夕 の 格助(連体)

宮仕へ 格助(対象) に

つけ 動(力下二用) て も、 係助(強意) 人の 心 を 格助(連体) 格助(対象) のみ

の 副 助(強調)

動かし、 恨み 動(サ四・用) 格助(対象) を

負ふ 積もり 動(八四・体) 助動(断用) に や 係助(疑問)(係) あり 補動(ラ変・用) けむ、 助動(過原推体) ↓結

いと あつしく 副 形(シク・用) なりゆき、 動(力四・用)

もの心細げに 形動(ナリ・用) 里がちなる 格助(対象) を、 副 いよいよ 飽か 動(力四・未)

ず 助動(消・用) あはれなる もの

に 格助(内容) 思ほし 動尊(サ四・用) ↓帝 て、 人の 格助(連体) 格助(対象) を

も 係助(類例) 副 え 憚ら 動(ラ四・未)

せ 助動尊(尊・用) ↓帝 給は 補動尊(八四・未) 助動(消・用) 世の 格助(連体) 例 格助(変化)

も 係助(類例) 動(ラ四・用) なり ぬ 助動(強終) 助動(推体) 御もてなし 助動(断・終)

へき 助動(推体) 御もてなし 助動(断・終)

⑤ 上達部、上人 副助(例示) など

も 係助(類例) あいなく 目 を 格助(対象) そばめ 動(マ下二用) つつ、 接助(反復)

いと 副

まばゆき、人の御おぼえなり。
格(ク・体) 格助(連体) 助動(断・終)

6 唐土に御も、かかる事
格助(場所) 係助(類例) 動(ラ変・体)

の起こりにこそ、世も乱れ悪しかりけれ
格助(連体) 格助(原因理由) 係助(強意)(係) 係助(類例) 動(ラ下二用) 形(シク・用) 助動(過・已)―結

と、やうやう天の下にも、あぢきなう、人のもて悩みぐさ
格助(引用) 副 格助(場所) 係助(類例) 形(ク・用・ウ音便) 格助(連体)

にたりて、楊貴妃の例も引き出でつ
格助(変化) 動(ラ四用) 接助(単純) 格助(連体) 係助(類例) 動(ラ下二用) 助動(強終)

べくなりゆくに、いとはしたなきこと多かれど、かたじけなき
助動(推用) 動(力四・体) 接助(順確) 副 形(ク・体) 接助(逆確) 形(ク・体)

御心ばへの類ひなきを頼みにて交じらひ給ふ。
格助(主格) 形(ク・体) 格助(対象) 格助(手段材料) 動(ハ四・用) 補動(尊)(八四・終)

↓桐壺の更衣

7 父の大納言は亡くなりて、母北の方なむ、いにしへ
格助(連体) 格助(連体) 係助(取立) 動(ラ四用) 接助(単純) 係助(強意)(係)

の人のよしあるに、て、親うち具し、さしあたり
格助(連体) 格助(同格) 動(ラ変・体) 助動(断用) 接助(単純) 動(ラ四用)

て世のおぼえはなやかなる御方々にもいたう
接助(単純) 格助(連体) 形動(ナリ・体) 格助(比較) 係助(強意) 副

劣らず、何事の儀式をもち給ひ
動(ラ四・未) 助動(消用) 格助(連体) 格助(対象) 係助(強意) 動(サ四用) 補動(尊)(八四用)

↓北の方

けれど、取り立ててはかばかしき後見しなけれ
助動(過・已)―滅 接助(逆確) 動(ラ下二用) 接助(単純) 形(シク・体) 副助(強意) 形(ク・已)

ば、事ある時は、なほ抛りどころなく心細げなり。
接助(順確) 動(ラ変体) 係助(取立) 副 形(ク・用) 形動(ナリ・終)

8 前の世にも、御契りや深かりけむ、世
格助(連体) 格助(時) 係助(類例) 係助(疑問)(係) 形(ク・用) 助動(過原推体)―結

に なく 清らなる 玉の 男皇子 さへ 生まれ 給ひ
格助(場所) 形ク(用) 形動(ナリ・体) 格助(比喩) 副助(添加) 動(ラ下二・用) 補動(尊)(八四・用)

↓玉の男皇子

ぬ。 ⑨いつしかと 心もとながらせ 給ひ 急ぎ
助動(完・終) 副 格助(引用) 動(ラ四・未) 助動(尊・用) 補動(尊)(八四・用) 接助(単純) 接助(単純) 動(力四・用)

↓帝

↓帝

参ら せ て 御覧ずる に、 めづらかなる 児 の 御かたち
動(謙)(ラ四・未) 助動(使・用) 接助(単純) 動(尊)(サ変・体) 接助(単純) 形動(ナリ・体) 格助(連体) 格助(連体)

↓帝

格助(連体)

なり。 ⑩一の皇子 は、 右大臣 の 女御 の 御腹 に て、
助動(断・終) 係助(取立) 格助(連体) 格助(連体) 格助(連体) 助動(断・用) 接助(単純)

寄せ 重く、 疑ひ なき 儲けの君 と、 世 に もてかしづき
形ク(用) 形ク(体) 格助(引用) 格助(引用) 格助(場所) 動(力四・用)

聞こゆれ どの この 御にほひ に は 並び
補動(謙)(ヤ下二・已) 接助(逆確) 格助(連体) 格助(比較) 係助(強調) 動(八四・用)

↓一の皇子

給ふ べく も あら ざり けれ ば、 おほかた
補動(尊)(八四・終) 助動(可用) 係助(強意) 補動(ラ変・未) 助動(消用) 助動(過・已) 接助(順確) 接助(順確)

↓一の皇子

の やむことなき 御思ひ に て、 この 君 を ば、
格助(連体) 形ク(体) 助動(断・用) 接助(単純) 格助(連体) 格助(対象) 係助(強調)

私物 に 思ほし かしづき 給ふ こと 限りなし。
格助(内容) 動(尊)(サ四・用) 動(力四・用) 補動(尊)(八四・体) 形ク(終)

↓帝

↓帝